

WS 3	日本経済の死角を検証する－実質賃金・海外投資・労働市場・コーポレートガバナンス・イノベーション			
	【定員】 35名 【受講料】 2年・1年会員ともに 18,530円 聴講生 20,080円			
	【政治・経済・社会】 経済 ワークショップ 【時間】 毎回15時00分～17時00分（計12回）			
概要	<p>コロナショックを契機として、長期停滞・デフレ経済から漸く脱したかに見える日本経済ですが、少子高齢化が確実に進む中、物価上昇や政府債務の増大に加えて米国第一主義にも翻弄され、また政治面でもポピュリズム的な傾向が強まる中、このまま成長軌道に復帰できるのか難しい局面を迎えています。この講座が開始される時期に世界の政治・経済がどうなっているか予測が付きませんが、『日本経済の死角』（河野龍太郎著）を議論の指針として批判的に読み込みながら、日本経済が向かうべき課題と対策を考えていきます。</p>			
回	月/日(曜)	会場	学習内容	講師名(敬称略)
1	10/10(金)	川崎市 生涯学習 プラザ	学習ガイダンス・日本経済の状況確認（GDP、就業者数、物価、賃金、生産性、政府債務、経常収支等の推移）	横浜市立大学 名誉教授 金子 文夫
2	10/17(金)		第1章（前段）：生産性が上がっても実質賃金が上がらない理由(なぜ収奪的な経済システムに転落したのか)	
3	10/24(金)		第1章（後段）：生産性が上がっても実質賃金が上がらない理由（コーポレートガバナンス改革の罨等）	
4	10/31(金)		第2章：定期昇給の下での実質ゼロベアの罨	
5	11/21(金)		第3章：対外直接投資の落とし穴	
6	11/28(金)		補論（仮）：米国第一主義と日本経済の課題（その時点の課題を改めて選定します）	
7	12/5(金)		第4章：労働市場の構造変化と日銀の二つの誤算	
8	12/12(金)		第5章：労働法制変更のマクロ経済への衝撃	
9	12/19(金)		補論（仮）：財政収支と社会保障から見た日本経済の課題（その時点の課題を改めて選定します）	
10	1/9(金)		第6章：コーポレートガバナンス改革の陥穽と長期雇用制の行方	
11	1/16(金)		第7章：イノベーションを社会はどう飼いなすか	
12	1/23(金)		最終討議：日本経済は復活するか（課題と解決策）	
連絡事項	<p>①講義を受講するのではなく、テキストを基に自分たちで考え・調べ・討議しながら自主的に学習するゼミ形式です。②担当チームがテキストの担当部分について調査・研究した内容を発表するとともに、全員で疑問点についての質疑応答と論点の討議を行います。なお、関連資料は担当チームからメールで事前送付しますので、各自でプリントして持参願います。③テキストは『日本経済の死角』（河野龍太郎著・ちくま新書・1,034円）を使用しますので、各自で購入してください。④WS後の自主的補習授業も活発に行っている元気なWSです。 □</p>			